平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	スポーツリテラシーⅣ (Sports　LiteracyⅣ　)	授業コード	E001501
担当教員名	竹田　隆行	科目ナンバリングコード	E20706
配当学年	2	開講期	前期
必修・選択区分	コース必修 　スポーツビジネスコース 選択 　地域マネジメントコース 　Bソリューションコース 　会計ファイナンスコース 　福祉マネジメントコース 　こども・福祉コース	単位数	2
履修上の注意または履修条件	教科書「スポーツ産業論第6版」のⅣ部とⅤ部を解説します。講義前に必ず教科書を読んでおくこと。他の関連科目を履修していなくても、この科目だけで理解できるようになっています。		
受講心得	授業に出席するだけでは意味がありません。社会参画入門で学んだ授業を受ける態度、心構えを思い出してください。スポーツに対してそれぞれのこだわりを持っているかと思いますが、講義ではゼロベースで物事を考える重要性を学んでもらいたい。		
教科書	スポーツ産業論　第6版(杏林書院)		
参考文献及び指定図書	現代スポーツ産業論(堂友館) プロスポーツビジネス(東邦出版)		
関連科目	スポーツ経営学、スポーツビジネス・マネジメント概論、スポーツイベント実践、スポーツリテラシーⅥ(スポーツビジネス実践)		

授業の目的	スポーツ産業の発展はスポーツのビジネス化を進め、スポーツマネジメントやスポーツマーケティングの分野で多くの雇用を創出しました。アメリカはもとより、世界的な規模でスポーツビジネスの専門家の養成に力が注がれています。本講義では、スポーツ産業の現状を把握し、特にプロスポーツ、スポーツイベントについて学びます。試験に合格することだけでなく、修得した知識をビジネスの場で適応、応用できる技術として身につけることを目標とします。
授業の概要	スポーツ経営学の領域であるスポーツ産業を理解します。特にプロスポーツ、スポーツツーリズムを中心に現状と課題等を含めて学びます。教科書「スポーツ産業論第6版」を使用しますので、講義前、講義後には必ず読んでおくこと。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： ○第1回　スポーツ産業を構成する産業領域 スポーツ産業を構成する代表的な3つの領域を説明します。3つの領域とは、スポーツ用品市場、スポーツ施設空間産業、スポーツ情報サービス産業です。スポーツ産業の歩みを説明します。	予習(教科書1章を熟読) 1h 復習(教科書・ノート確認) 2h:スポーツ産業の構造についてまとめる。
第 2 週 ： ○第2回　進化するスポーツ産業 スポーツ産業(3つの領域を含め)の現状と課題を説明します。隣接する産業領域とのコラボレーションによって、スポーツ産業が発展する可能性について学びます。	予習(教科書1章を熟読) 1h 復習(教科書・ノート確認) 2h:スポーツ産業拡大の可能性についてまとめる。

第 3 週 ： ○第3回　日本のプロスポーツ 日本のプロスポーツについて説明します。プロスポーツは、スポーツ用品と異なり品質が保証できなくても販売するというユニークな点があります。それゆえの難しさがあることを理解します。	予習（教科書18章を熟読）1h 復習（教科書・ノート確認）2h：プロスポーツについてまとめる。
第 4 週 ： ○第4回　日本のプロスポーツ2 日本のプロスポーツについて説明します。日本の代表的なプロスポーツである、「大相撲」「プロ野球」「Jリーグ」「Bリーグ」の現状と取り組みについて説明します。	予習（教科書18章を熟読）1h 復習（教科書・ノート確認）2h：日本のプロスポーツについてまとめる。
第 5 週 ： ○第5回　アメリカのプロスポーツビジネス1 アメリカの4大プロスポーツリーグ（MLB、NFL、NAB、NHL）の概要を紹介します。アメリカのスポーツリーグは、1年間スポーツが楽しめる仕組みになっていることを理解します。	予習（教科書19章を熟読）1h 復習（教科書・ノート確認）2h：アメリカのプロスポーツについてまとめる。
第 6 週 ： ○第6回　アメリカのプロスポーツビジネス2 アメリカのプロスポーツの基本的な考え方を理解します。資本主義社会のアメリカで4大プロスポーツリーグが特殊なビジネスを展開している理由を説明します。	予習（教科書19章を熟読）1h 復習（教科書・ノート確認）2h：アメリカのプロスポーツの構造についてまとめる
第 7 週 ： ○第7回　ヨーロッパのプロスポーツビジネス ヨーロッパには、サッカーだけでなく多くのプロスポーツが存在することを紹介します。 ヨーロッパのサッカー市場におけるメディアの功罪について説明します。	予習（教科書20章を熟読）1h 復習（教科書・ノート確認）2h：ヨーロッパのプロスポーツについてまとめる。
第 8 週 ： ○第8回　ロス五輪とスポーツビジネスの誕生 現在のスポーツビジネスの基本モデルは、ロサンゼルスオリンピック（1984年）と言われています。ロサンゼルスオリンピックのビジネスモデルを学びます。	予習（教科書19・20章を熟読）1h。復習（教科書・ノート確認）2h：オリンピックのビジネスモデルについてまとめる。
第 9 週 ： ○第9回　プロ契約とスポーツエージェント スポーツエージェント（代理人）の業務を紹介します。スポーツエージェントは、必要不可欠と言われていますが、その功罪について説明します。	予習（教科書21章を熟読）1h 復習（教科書・ノート確認）2h：スポーツエージェントについてまとめる。

第10週：〇第10回　権利としてのスポーツ スポーツビジネスは権利ビジネスと言われる理由を説明します。スポーツと企業のかかわりとアスリートのエンドースメント契約から、今後の権利ビジネスを考えます。	予習（教科書22章を熟読）1h 復習（教科書・ノート確認）2h：権利ビジネス（スポーツ）についてまとめる。
第11週：〇第11回　スポーツツーリズム 新たなスポーツビジネスとして注目されているスポーツツーリズムについて説明します。スポーツツーリズムが機能するための仕組みを学びます。	予習（教科書23章を熟読）1h 復習（教科書・ノート確認）2h：スポーツツーリズムについてまとめる。
第12週：〇第12回　スポーツと地域活性化1 スポーツを利用した地域活性化について説明してます。スポーツ振興と地域に関連する政策の変遷を理解します。スポーツが地域活性化に果たす役割を考えます。	予習（教科書24章を熟読）1h 復習（教科書・ノート確認）2h：スポーツと地域についてまとめる。
第13週：〇第13回　スポーツと地域活性化2 Jリーグのホームタウン活動と地域活性化、スポーツNPOの地域活性化戦略、地位スポーツと地域通貨の可能性について、事例をもとに学びます。	予習（教科書24章を熟読）1h 復習（教科書・ノート確認）2h：地域におけるスポーツについてまとめる。
第14週：〇第14回　スポーツと社会的責任 スポーツと社会的責任（CSR）について学びます。企業の社会的責任の考え方から、スポーツの社会的責任を考えます。スポーツを通じた社会的責任についても説明します。	予習（教科書25章を熟読）1h 復習（教科書・ノート確認）2h：スポーツと社会的責任についてまとめる。
第15週：〇第15回　これからのスポーツ産業 スポーツ、スポーツ産業に必要なものはイノベーション（新しい価値創造）であることを理解します。これまで学んだことをベースにスポーツ産業の発展の可能性について考えます。	予習（教科書18～25章を熟読）1h。復習（教科書・ノート確認）2h：スポーツ産業発展の可能性についてまとめる。
第16週：期末試験 これまでの講義内容を試験範囲とします。試験時間は60分とします。	試験準備 教科書・ノートの確認

授業の運営方法	（1）授業の形式	「講義形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	該当しない	
備考		

〇単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	スポーツビジネスに必要な知識や倫理観を身に付けるとともに、目的意識を持って自発的に学習する能力を身につける。

【知識・理解】	スポーツビジネスの専門的・実践的知識を習得し、それらを総合・活用して問題解決を図るリテラシーを身につける。
【技能・表現・コミュニケーション】	
【思考・判断・創造】	変容する社会において、多角的に考察・分析し、スポーツビジネスの現場で課題解決できるマネジメント能力を活かし、新たな価値創造にチャレンジする能力を身につける。

〇成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	10点			
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	60点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	30点			

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

〇配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	
レポート・作品等（提出物）	
発表・その他（無形成果）	